令和７年２月25日（火）　第131号　http://www.niigata-educ.nein.ed.jp

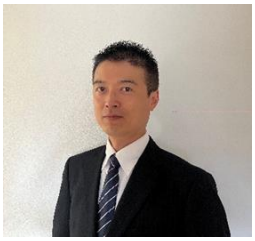
新潟県立教育センターだより Niigata Prefectural Education Center

学び続ける教師

「拓け未来の新潟 第18回教育フォーラム」を開催しました

令和７年１月24日（金）に開催した「拓け未来の新潟　第18回教育フォーラム」には、450人を超える方からお申し込みをいただきました。以下に、基調講演と当センターが実施した２つのプロジェクトを紹介します。申し込みをされた方は３月末まで御視聴いただけます。追加で視聴したい場合は、県立教育センター教育研究班に御連絡ください。

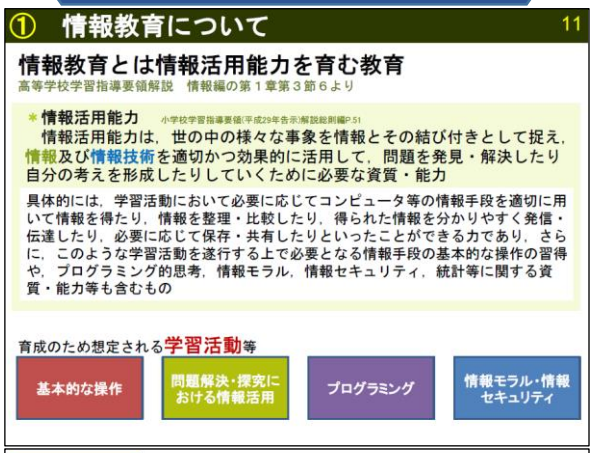
基調講演



演題　「小学校・中学校・特別支援学校・高等学校における GIGA端末の活用について」
講師　国立教育政策研究所　教育課程調査官　渡邊　茂一　様

本講演では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習活動について、様々な校種・教科で活用できるICTツールを用いた豊富な事例を、動画をもとに御紹介いただきました。また、プログラミング教育や情報モラル、校務の情報化、生成ＡＩなど、児童生徒の情報活用能力を育成するためのポイントや指導する上での注意点について、わかりやすく説明していただき、どの校種の先生方にも参考となる内容でした。

講演スライド（一部）



参加者の声

ICTをどのように用いているのか、自分の校種以外の実践を知ることができ、参考にしたいと思いました。

講演をとおして、社会の情勢を踏まえ、生徒の将来に必要な生きる力を見据えた教育の重要性を再認識しました。また、教育の情報化について、３つの側面から具体的にお話しいただき、大変勉強になりました。

最新の情報や事例などを知ることができました。特に印象に残ったのは、「児童生徒が自分の学び方を実現できるよう、道具として端末が使える状態を目指しましょう」というご指導です。児童生徒が正しい知識や理解のもと、自分の学習や生活に必要なツールを自己選択・自己決定して使えるように指導することが重要だと理解できました。

特別支援教育

特別支援教育の充実を目指す学校間連携の在り方について

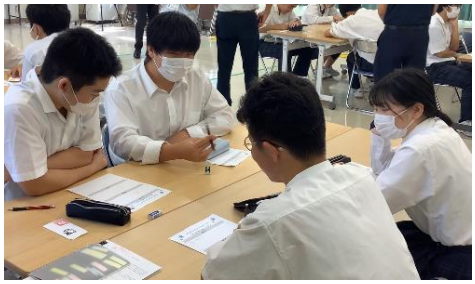
本プロジェクトチームでは、校舎が併設している県立村松高等学校と県立五泉特別支援学校村松分校に協力を依頼し、標記テーマで調査・研究を行いました。

分科会では、特別支援教育の充実を目指す学校間連携に関する高等学校の取組を紹介し、県内、県外を問わず様々な方から御参加いただきました。

両校における取組の様子

SST授業検討会

一部、動画でも紹介されてます！



SST授業

参加者の声

生徒それぞれの特性に応じた支援・指導が分からず苦労している状況は本校も同様です…

県セン
どんな支援が有効か考える際、今回の取組のように特別支援学校の先生からケース会議等に入ってもらうのも一つの方法ですね。

特別支援学校のセンター的機能を活用し、通常学級の中にいる支援が必要な児童生徒への適切な対応やSST等、学校全体で共有したいです。

県セン
困っている児童生徒が活動に参加しやすくなるような支援方法を考える上で必要になる実態把握についても、ヒントがもらえるかもしれません。

特別支援学校で特支コーディネーターをしています。センター的機能の役割を担う上で、どのような取り組みを進めればよいのか、多くのヒントをいただきました。

県セン
特別支援学校が他の学校へ支援する際に大切にしたいことについて、動画の座談会でも触れられていましたね。有効なサポートを行うために、「お互いの顔が見える関係づくり」は非常に大切であると考えます。

Check!

特別支援学校のセンター的機能とは

地域の学校の要請に応じて必要な助言等を行うこと

〇具体例

- 教員、保護者の相談支援
- 障害のある子供への指導・支援
- 教材教具の提供
- 特別支援教育に係る情報提供
- 教員に対する研修

等

まずは、近くの特別支援学校に連絡を！

学級・ホームルーム経営

子どもが主体の学級・ホームルーム経営

本プロジェクトチームでは、学級・ホームルーム経営における教師の悩みなどを調査し、「子どもの人間関係づくり」に焦点化した研究を行いました。幼児・児童・生徒が多様な価値観に触れ、互いの違いを認め合い、共に生きていく力を育む「話合い活動」について、協力校園の実践を紹介しました。

また、上越教育大学の赤坂真二教授から、発達段階に応じた教師の関わり方や子どもの発達を促すためのポイントについて助言をいただきました。

事前調査による先生方の声

子どもたちは、関わりたい気持ちが強い分、トラブルも多く見られるため、対応していく上で悩みます。　（採用4～6年目幼稚園教諭）

児童が、互いによりよい人間関係を築くための、教師の支援に困難さを感じます。（採用1～3年目小学校教諭）

多様性を認めることと、集団で活動する指導の狭間で悩むことが最近よくあります。（採用4～7年目中学校教諭）

担任として、生徒の人間関係にどこまで踏み込んでよいのか迷う場面が多々あります。（採用1～3年目高等学校教諭）

【赤坂教授助言のポイント】
- □**人間関係形成能力・社会形成能力（学習者の育まれる力）**
- □**ファシリテーション・フィードバック（教師の働きかけ）**
- □**表情・自己開示（学級・ホームルームの雰囲気づくり）**

上越教育大学
教授　赤坂 真二　様

各校園における取組の様子

【小千谷幼稚園】
小さい子をお祭りに招待しよう！

【関川村立関川小学校】
収穫したさつまいも、どうする？

【上越市立八千浦中学校】
自分たちの力で最高の合唱をつくろう

【県立長岡高等学校】
自分たちのあいさつについて振り返ろう

参加者の声

なぜ協力が必要なのか、そのためのスキル、話合いにおけるファシリテーションなど、とても惹きつけられました。

「個別最適な学び」への関心が高まる中、改めて、「協働的な学び」の意味、話合いの意味を考え直そうと思いました。

小さい子の取組でも高校にも通じるところがあると思いました。話合いまでのプロセスが見たかったです。刺激的でした。